

平成 29 年度 第 1 回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 平成 29 年 6 月 20 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分
- 場 所 伊勢市防災センター 防災研修室 1
- 出席委員 深草正博、花田基、田口昇、高橋薫、岩崎三安子、尾関均、伊寿秀夫、
秋山則子、森尚哉、中村佳子、杉山謙三、大西隆、北川和子、中井保生、
角谷和香、藤田典子、山口和広、江原博喜
- 市出席者 健康福祉部
（次長）鳥堂昌洋、（参事）鈴木光代
・ こども課
（課長）藤原孝彦、（副参事）戸上隆子、（こども育成係長）北村幸治、
（保育係長）堀川友里、（保育施設管理係長）須川文、
（こども育成係）福田智仁、（保育施設管理係）奥野翔平
・ 健康課 （母子保健係長）樋口典子
- 教育委員会
・ 教育総務課（課長）濱口昌大、（総務係）西野佐俊
・ 学校教育課（指導主事）奥田恭子
・ 社会教育課（課長）岩村敏彦、（課長補佐）阿部暖
- 議 題 （1）「伊勢市子ども・子育て支援事業計画」の見直しについて
（2）小規模保育事業の認可について

●事務局

(開会挨拶、次長挨拶、委員・事務局紹介、資料確認、会議成立宣言、会長・副会長選任)

●会長

それでは失礼いたします。会長に選んでいただきまして光栄です。今まで何年か勤めさせていただきましたが、非常にふつつかな、失敗もいろいろと多いのですが、皆様のご協力なくしては務まりませんので、皆さんに支えていただきました。しかも今年拝見しますと非常に委員も変わりまして、事務局も相当新しいメンバーで、新たな気持ちでまたできるのではないかと思います。どうぞよろしく申し上げます。

●副会長

私立保育連盟の会長をさせていただいております。私よりもっとすばらしいベテランの方がたくさんみえると思うのですが、私をという形でご指名をいただきました。保育連盟の会長をさせていただいて8年余り、伊勢市の保育所の実情といたしましては詳しく知っているつもりでございます。いろいろな会議に出させていただきます、伊勢の様子もいろいろと教えてもらっております。

皆さん方のご協力をよろしく申し上げます。

●事務局

ありがとうございました。それでは、この後の議事の進行につきましては会長にお願いします。会長、よろしく申し上げます。

●会長

よろしく申し上げます。伊勢市の市役所も改装工事ですか。今まで慣れ親しんだ会場と違って、より広くきれいな会場ですけども、この会議でマイクを使うのは初めてですね。

それでは、議事を進めさせていただきます。

事項書3の(1)「伊勢市子ども・子育て支援事業計画」の見直しについて」を議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。

●事務局

(資料1-1、1-2、1-3、1-4:「伊勢市子ども・子育て支援事業計画」の見直しについて説明)

●会長

はい、どうもありがとうございました。多岐にわたりまして。今の事務局の説明についてご質問ございましたら、どうぞ、忌憚のないご意見を申し上げます。

●委員

今の子供との触れ合いは私も前から保育所の体験じゃなく、そういう事業が別にありますので子どもと触れ合うということをご昔から知っていて、やった方がいいですよって話をしていたかと思うのですが。明照 柊ですか、助成金取ってやっていたいていて、子どもと触れ合う事業はすごくいいみたいで、是非是非、そこが伊勢市のとてもいい事業かと思っていますので、これからもお願いします。

●委員

先ほどの話であった体験の時間数は、就労の勉強時間との中で学校側の時間の確保が一緒になるから、こればかりには時間が取れないということなのですか。

●事務局

職場体験については中学2年生の各学校が受け入れ側の企業との相談の中で、その中学校が保育所・幼稚園が多い、他企業が多い、地域とのつながりの中でやっております。決してそれが減ってきているわけではなく、中学生を受け入れていただける企業がかなり増えてきてまして、今まで幼稚園・保育園にムリを言ってお願いしてきたところが多かったのですが、伊勢市内の企業・団体の理解もかなり増えてきており、子どもたちにとって希望職種の選択

がかなり増えてきたこともあり、その中で 25% というとそれぞれの 4 分の 1 が必ず保育所、幼稚園に職場体験に行くというのが目標となってきましたので、そこで絞ってしまうのではなく、子どもたちの職の希望も叶えてあげながら、また授業の中で家庭科のところなどでも行事などでも大切にしているところをより強めておりますので、そこを考えていきたいと思い 20% とさせていただきます。

●委員

職場体験としての中のこの割合ということですね。ありがとうございます。

●会長

そのほかにございませんか。

●委員

合計特殊出生率の話ですけれども、当初の事業計画では 0 歳児平成 29 年度 940 人、平成 30 年度 927 人、平成 31 年度 914 人と 900 人をコンスタントに上回るような計画だったと思うのですが、平成 28 年度 851 人と、出生数は予定よりも確実に減るということですね。

来年も妊娠の届出、母子手帳の請求が 900 人と聞いたのですが、合計特殊出生率は減っているのでしょうか。

●事務局

平成 28 年度出生数が激減してしまっていて、平成 29 年度は状況を見守っているところですが、4 月、5 月の出生数や母子手帳の発行数をみていますと去年度並というところですが、平成 27 年度が母子手帳の発行数が 980 冊、平成 28 年度が 880 冊です。今の状況をみていますと、29 年度もこの 2 ヶ月間から推計しますと 880 冊前後と、900 冊を切れている状態です。

特殊出生率の方はまだ出てきていないのですが、毎年 10 月での母子保健会議の中では、県・国とそんなに大きく差はなく推移していたと思います。去年が異常だったのか、100 件くらい下がっている状況です。私たちもこんなに急に少子化が進んでくるとは思っていなくて、平成 27 年からいろいろと伊勢市版の県ボラということで妊娠時からの事業を展開してきたところですので、なんとか歯止めをかけなくてはと思っている状況です。

●委員

ありがとうございました。出生数から急落というのは大分先だと思っていたのですが、最近急激に落ちて。この会の目的というのは出生率を上げてこうということがあると思うのですが。また 900 人に戻っていったらと思います。

●会長

ありがとうございました。本当に急激ですね。97 万人ですか、日本全国で 100 万人を切ってしまったと、先日ニュースになりましたけれども、本当になかなか歯止めがきかないですね。ほかにどうでしょうか。

●委員

先週の新聞に希望の保育園に入れなかったお子さんが 30 名との記事が出ています。2 月の記事では 122 名ぐらいという記事があったと思うのですが。大阪とか東京とか大都会の状況で希望の保育園に入れなかったというのは聞いているのですが、それでも都会ですとお子さん或いは働く若い人たちが集まってくるのでしょうか。やはりこういう田舎では、保育園に入れないというのは非常に大きいマイナスの要素ではないかなと思っています。

先ほど、見込み数の変更をしていただいて、幼稚園の母数を上げていただいたと思うのですが、上げるだけではなくて来年度、今年度出た 30 名の待機児童がもっと少なくなるような方向性に持っていけるのかどうか。新聞によると今のところ無施策というような感じで書かれていましたので、無施策ということは方法がないということで、見込み数だけ上げて実際の数は変わらずどんどん待機児童だけ増えるということは、伊勢市として決していい状況ではないと思うのですが、その辺ちょっとお伺いしたいと思います。

●事務局

ご心配いただいていることに関しては、市としても近々の課題と考えております。まず保育所の入所待機児童に関しても、新聞の報道でもいろんな数字で上げていただいております。厚労省が提示する待機児童、希望する園だけでなく他に入園する園がないような状況で待機となってしまうというのが厚生労働省の定義する待機児童でございますけれども、これまで伊勢市においては待機児童がなかったですけれども昨年度年度途中で初めて生じました。その後、今年度末に近づくにつれて入所希望者がどんどん増えて、最終的には100人を超える待機児童が生じているというところでございます。

その待機児童は4月の時点では一旦解消しておりますけれども、依然として希望する園に入園できない児童というのは多数おります。今現在50人を超える方が希望する保育所に入れていないという状況です。

こういったことを解消していくということで、既存の保育所の定員拡充であるとか幼稚園が保育所の機能を持った認定こども園に移行していくなどを現在進めております。また、今回の計画の見直しでも上げさせていただきました、地域型保育事業という形で、小規模保育や事業所内保育、こういった多様な形態での保育の受け皿の確保ということで取り組んでいる状況です。待機児童が生じることのないように最善を尽くしていきたいと思っております。

●委員

ありがとうございます。確かに希望される場所とそうでないところで余っているところはあるかと思うのですが、希望される場所はそれなりに理由がきっとあると思っております。家の近くとか勤務の行き先の途中にあるとかがあって、明後日の方向のところは空いているから行ってくれと言われても、なかなか行けないというのが親御さん方の気持ちだと思いますので、そういったところを酌んで頂いてなるべく改善していただきたい、この記事も決して伊勢市のプラスにはならないと思っておりますので頑張ってくださいと思います。

●会長

ご指摘ですのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

●委員

先ほど出生率について、内閣府の調査で一番出生率が高いのが沖縄県、三重県は28番目です。結構良いわけですね。三重県は1.45、沖縄県が1.86と一番高いです。ただ、伊勢市が急に減ってきた。人口減少など様々なことがあるかと思いますが、出生率が下がってきている状況を具体的に考えていかないといけない。そこにひとつの課題が大きく浮かび上がった、そういう気がします。

出生率の低下、極端に下がったことはなぜなのか。様々な施策は取っていただいておりますけれども結果的にそういう状況になっています。30年度もおそらくそういう形の推移をたどっていくのではないかと懸念があります。

●会長

ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。

●委員

出生率が下がっているというのは、保護者が働きやすい環境がどんどんできてきて、一旦働いてしまうとなかなか二人目を産もうとか三人目を産もうとかできるのかどうかということと、また、子育ての楽しさというところに、親が子育ては楽だけど楽しさを感じているのかどうか、そういったところが小さいときから感じ取れる施策をお願いしたいと思ひます。

●会長

その他いかがでしょうか。先ほどの話で、沖縄がなぜかというところも知りたいですね。気候とかそんなことでもないでしょうね。地域性とかもあるでしょうね。

●委員

子育てをしやすい、あるいは出産ができるような様々な条件があるということ。伊勢市の今後の課題で、出産ができるような環境を作っていくかということですね。

●会長

地域の支援もあるのでしょね、沖縄は。産みやすい環境というか。

●委員

急に100人下がった要因ではないかもしれないですけども、例えば、私たちの世代ですと祖父母が家にいて預かってくれてというのがあったのですが、今、急激に祖父母世代が元気で働いていることが多くなったというのも一つかなと。祖父母に頼めない、人にみてもらうのならもう一人ぐらい欲しいと思っていただけやめておこうか、というのはあるかなと思います。

祖父母に頼れなくなったのは大きいのかなと思います。その代わりに、ではどこかという新生児から預かってくれるってないですよ。

●会長

一つではないと思いますね。さまざまな要因が重なっていると思いますけども。その他ございませんでしょうか。

●委員

先ほどから、前は三世代の家族があって祖父母が居てくれてという話がありましたが、今、市内の住宅の状況とかをみておきますと、どんどん地域が広がっています。特に最近ですと小俣のユニチカの跡地は大規模な住宅開発をされています。新しい家族ができると新しい団地へ行かれて、住宅を売り出すときには近所に保育所がある、学校がある、駅が近いというところで、これなら子どもにも安心だなと。そういうところだと、子どもがたくさん集まってくると思います。保育園も一杯、学校も一杯、預けたくても預けられないというような状況です。

ただ、だからと言って保育園を建てると、ある一定の年月が経ってくると、今度は全員一緒に学校へ行って、働きに行くときにはガラガラになるというようなこともございます。でするので、今年度から私共でもどうしたらいいかなということで、企業内保育所に取り組んでみようかということで、企業に声を掛け、企業で保育園をとということで、今ですと伊勢日赤さんとか伊勢病院とか院内保育園とかありますけども、そういったところだと働きに行くところですので、預けるのも預けやすい、そういった形で取り組みをさせていただいております。

●委員

NPOで藍ちゃんの家というところがやっていますけど、「幼・老」一緒の施設、学童保育もやっていますし、元々は老人の介護とかのデイサービスとかやっていますし、幼・老で両方が一体型ってできないのかなと思って。そうすると、子どもが少なくなっても老人は多くなる。子どもだけだと施設いらなくなるよという時代だから。おじいちゃんとおばあちゃんと子どもたちが触れ合うというのもいいし、藍ちゃんの家ってとっていいないつも思っています。そんなことはできないのかなって思います。

●会長

そのほかよろしいでしょうか。いろいろありますね。いろいろアイデア出さないといけないと思いますけども。特にございませんでしょうか。

●副会長

先ほどから実際に子どもを預ける施設としての感じ方と言いますか、皆さんが言われていることがほとんど当たっていると思います。伊勢では毎週求人募集が出ており、正職員である程度の給料の高い職種が出ているかということとはほとんどないですね。出ているのはアルバイトかパートか低賃金の日雇いか派遣がほとんどです。せいぜい見つけて1つか2つという状況です。ご主人さんの給料である程度小さい時は子どもをみて、大きくなったら保育園や幼稚園に入れて自分も働きに出てというのと、小さいうちから少しでも預けておいて、僅かなお金でも稼ごうというところがあって、私立保育園関係の園長会の話では必ず出てきます。もう少し本当はみてあげたらいいのと思う年齢の子から預けてきます。したがって、0歳児の方がどうしても足りなくなってくる。実態的に足りないというところも出てきます。

先ほどの話で祖父母と一緒に生活している、みていただける、確かに確実に年々そういう家庭が減ってきています。祖父母が働いているためにみてもらえない、だから保育園に入れなければいけない。で、保育園の方は一杯である。ただ、一杯であるというのは限られたところが一杯。従って、厚労省のいう待機児童はまだないはずです。必要な部分は勤め先に近いところ、便利なところという保育園に集中する。そうでない離れたところ、特に震災があってから海岸沿いは敬遠されてだんだん過疎化が進んでいく。そのため、受入体制はあったとしても希望されない。親御さんからすると非常に大事なことなので、近いところへ預けたい。それは最もな答えで、それが現実的には難しい状況があって学校の統廃合と同じことが保育園についても起こりうるかなど。必ず便利なところ、人口の多いところを作っていく、統合・廃止だということによって形を変えていかないと保育所の受入に時代が合わない。現に兆しが見えている。

また、私立の職員と公立の職員との絡みが課題になってきますが、私立の余っている職員を公立に回せばいいじゃないかというところ簡単にはできることではありません。いろいろな部分で難しいです。どんな方法が一番いいのか、どういう風に方向転換していくのかがいいのかわかりませんが、これから協議いただくことです。

話がズレるかもしれませんが、一つの方法として、職場体験で25%から20%と数値的には下方修正ですが、実質的に数字を数えていただくと、職場体験だけと限ってしまうとおそらく10%くらいだと思います。こどもの数に対して保育園、幼稚園の総数でいけば概算ですけど。20%でも多い方ですが。こどもと触れ合うことは非常に大事ですので、いろいろな機会を作ってやっていただけるといいかなと思います。

●委員

今の待機児童の問題、私はいつまでも続かないだろうと考えています。一つは費用対効果です。公立保育所ですと、退職まで面倒がみられる、施設への投資、今、小中学校が統廃合しているところで、公立保育所の統廃合を進めていくべきではないかと思います。

片や、私立幼稚園は認定こども園化し、どんどん移行しています。それが受け皿としてできるのではないかと。民間となってくると、いつまでも伊勢市が全て面倒みていくという気がしないでもない。なので、費用対効果を考えながら公立保育所の統廃合を進めていくべきではないかと考えます。

すぐに待機児童は解消できないですけども、今後は減少傾向にいくのではないかと思います。公立保育所の統廃合を考える時期が来ているのではないかと思います。

●会長

ありがとうございました。その他には今の関連でございませんでしょうか。

●委員

一つ伺いたいのですが、人気のある幼稚園とか保育所ってものの要因はわかりますでしょうか。勤めるところが多いとか若い方が多いとかの要因ってあると思うのですが、例えばさっきの意見でありましたように老人養護施設があるのでしたら、そこに保育士さんを一人派遣していただいて、スペース的な問題はあると思いますが、そういう一緒にやる方法を市が関わっていただけるのであれば可能なのかなとか、そういう方法ってありますか。

●委員

そういう方向で今動いていまして、高齢者と障害者の方がデイサービスと一緒にいけるとか、保育士さんの資格を持っている方を入れるとかでこれから共生の施設に進んでいくのかなと思います。おそらく施設基準とか人員基準とかが詳しく出ているところまではわかりませんが、そういう方向に動いています。

●委員

人口的に増える時期とか子どもが育つ時期とかがあり、施設を増やすのは後のことで支障をきたすなら、その近くの老人施設と一緒にするのが可能なら理想的な今の形です。

●委員

おそらくそのインフラですとか、介護の従事者とか保育士さんとかサービスを提供する方たちも少なくなっていく中で共生型を進めていく必要があります。

●委員

その方が対処としては早いですよね。

●委員

もう一ついいですか。保育所になかなか入れない現状の中で、二見の保育所の統廃合を耳にしたのですが、逆行するようですが、そこら辺どんな状況でしょうか。

●事務局

先ほどから委員がおっしゃっていただいております、公立施設としての統廃合ですが、今日協議していただいている子ども・子育て支援事業計画とは別に就学前の子どもの教育・保育に関する施設整備計画があります。その中で、例えば保育所ですが、公立施設を現在の施設数を半分程度にしていく、これは数そのものを減らしていくというのではなく、民間にできることは民間に委ねていこうという考え方もございます。前提として、待機児童を出さないことを前提として、公立施設の代替も計画の中にございます。

二見地区に関しては、二見町内に3つの公立保育施設があります。先ほどのお話にもありましたが、沿岸部ということもありまして、利用者が減少傾向にございます。そのため、効率的に運営していくこともありまして、3つの園を1つの園に統合するという計画で現在進めております。あくまでも待機児童を出さないということで、ニーズに応じた定員を確保していきたいと考えております。

●委員

その際に、3つを1つにする費用対効果、その後、伊勢市が継続していくのか民間に委ねていくのかということ。行政がやれば3つを1つにするからその経費は削減になるのですが、行政が主導でやっていくのか、思い切ってこの機会に民間にそういう部分に移っていくという時代を迎えるのではないかという感じがします。答えは難しいですが、その辺はどうでしょうか。

●委員

当面、役所主導でいくと思いますが、ただその先の状況はずっとそのままでいいのかという議論は当然ありますので、一区切りついたところで、役所の保育園をどうしていくのかを考えていかないといけないのかと、それまでにもいろいろ考えていかないといけないと思います。ただ、役所に残すとなれば、なぜ役所に残すのかという理由がある、例えば、発達支援とかを充実させる等、考えていかないといけないと思います。

●委員

今後はそういう方向に向いていかないといけないのではないかと所ですね。

●会長

二見については、私は小学校・中学校の方の統廃合のときも会長をやらせていただいております。将来高台に移転して、小学校も中学校も保育園も一体化することもそのときに出ておりましたけども、特に今はまだそういう方向にいったいではないのですか。そういうのが望ましいのではないかとその会議では出ており、その方向性も出たのですが。

●事務局

統合のときと見直しの際にはいろいろとお世話になりました。そのときに小中学校も保育園も高台の方へ検討するというので、意見等見直しをしていただきました。それについては、教育委員会としましても方向的には進める傾向ではいるのですが、他にも沿岸部である北浜の方を進めているのと、他の地域のところもかなり見直しが出ました。方向的には高台へ移転というところは変わっておりません。

●会長

ありがとうございます。たまたま二見の話がでましたので。そういう方向で考えているということ。

いろいろとご意見いただきましてありがとうございます。本当にこれから一筋縄では行かない問題、お子さんが増えないという、伊勢市だけの問題ではとてもありませんが、いろんな可能性を含んだご意見もいただきましたので、加味しつつ、みなさんも何かいいお知恵がございましたら積極的にこのような場で発言していただけたら、情報をいただけたらと思います。

先ほど人気のあるもの、なぜかということの調査なんかも必要になるかなと思いますね。なぜそこは場所とか先生の質の良さとかいろんな条件があると思いますけども。いろんな要因を考える必要があると思います。ではその他はいかがでしょうか。

●委員

私、3月まで介護施設にある託児所で働いていたのですが、先ほどから言われている祖母世代と保育を絡めると、そこの人たちが子どもたちを見るたびに喜んで自分の方へ抱き寄せたいという願いで、年いったらこうなるのかなと思いながら見ていたのですが、子どもたちもどのように感じて育っていくのかなというのがあります。公立で働いていたこともあって、そのときに保育所の環境とかいろんなものももっとちゃんとしていたら、子どもたちの発達ももっと保証できるのにと感じながら、自分たちで工夫はしていましたが、公立のノウハウや人的な面もハード的な面も含めて、介護施設の中の託児所とか企業内保育所に目を向けていただけたらいいかなと思います。

●会長

はい、ありがとうございます。企業とか介護の中での託児所もいいかもしれませんね。年齢も3～5歳あるいは0～5歳も一緒にして一つのクラスの中でということをやっているところもあるみたいですけども。そして60歳、70歳といった方たちの共生もお互いにいいかもしれないですね、それは。他、よろしいでしょうか。

●委員

今、教育委員会もこども課も懸命に努力してもらっていますが、ただ大きな施策として首長の考え方が非常に大きく反映してくるのではないかと思います。先般、元浦安市長とお会いしたのですが、浦安市は子育てについて非常に先進的な取り組みをしている。そういう方をこの子ども・子育て会議に呼んでお話を聞くことによって、様々な伊勢市の課題が浮き上がってくるでしょうし、しなければならぬことが一体何かということが見えてくると思います。幼稚園・保育園・認定こども園もそうですが、教職員の質の向上、これが非常に大きなポイントかと思っています。

それとやはり行政のあり方、首長の考え方で物事がどんどん動いていくので、そういう方のお話を聞くと非常にいいかなと思うんですけども。伊勢ならではの特区、神宮もあり食べ物もおいしい物価も高くないので、伊勢に住居を移して伊勢で子育てしようというものを伊勢独自のものを作っていきべきではないか。どこの自治体でも子育てについては必死です。国・県が言うことをするのではなく、伊勢独自の子育て制度を、出会いから出産、就学までの長い期間を伊勢独自のものを考えていくことも必要かと思っています。これは市町村の競争です。さまざまな課題はあると思いますが、視点はやはり子育て制度ですよね。確立していかないといけない。これによって人口も増えてくるかと思っています。ぜひともそういう人を招聘するのも一つの方法ではないかと思っています。

●会長

事務局の方はどうでしょうか。

●委員

また、事務局の方で検討していきたいと思います。

●会長

はい、ありがとうございました。それでは、いろいろご意見いただきましたけれども、説

明していただいた事務局案で事業計画変更の手続きを進めていただきたいと思います、それではよろしいでしょうか。

(異議なし)

はい、では進めていただきたいと思います。

●会長

では、次に議題の「(2)の小規模保育事業の認可について」ですが、まず事務局からの説明をお願いします。

●事務局

(資料2 「小規模保育事業の認可について」 説明)

●会長

はい、ありがとうございました。みなさんの意見をお聞きしたいと思いますので、まず、ご質問ご意見ありましたら。

●委員

幼稚園がこども園に進む中で、小規模保育事業に取り組むメリットは何かということと、小規模保育園はどのようなお子さんを対象に入れるのか、明倫幼稚園との絡みや希望するお子さんであれば入れるのか、明倫幼稚園の中で子どもが対象なのかということのもわかりませんが、今こども園に入れている方もすごく混乱していて、私たちにわかりやすい、国の施策を伊勢市が取り組むにあたってのことを教えていただきたいと思います。

●事務局

小規模保育についてのメリットですけれども、やはり待機児童が発生しかねないような状況の中で保育の受け皿が必要ということで、既存の保育所あるいは認定こども園で保育を行っていくことは基本として考えておりますけれども、それには施設の拡充も必要ですし、新規での認可となればそれ相応の施設の整備が必要になってきます。そういったことも踏まえまして、19人以下の小規模での実施であれば、比較的实施場所を確保しやすく開設しやすいものでございますので、そういった対応の中で受け皿を確保していくと考えております。

また、利用対象に関してですが、承認につきましては認可保育所と同様でございます。年齢が2歳以下ということになります。特に住所地であるとか明倫幼稚園との関係といったものはございません。市の方に申し込みいただいて通常と同様に利用調整をした上で入所者を決定していきます。

●会長

はい、ありがとうございました。今の説明ですと特に明倫幼稚園と云々はないのですね。はい、よろしいでしょうか。場所は確保しやすいのですね、十何人というので。その他、何かございませんか。

●委員

こどもの数が減ってきてですね、新しい大きな施設というのがなかなか難しい、民間のこういった小規模が多様な、これからの流れなのかなど。こうやって手を上げていただくのは非常にありがたい話と私たちは考えております。

●会長

はい、ありがとうございます。多様な受け皿の一つとしてはいいことではないかということですね。場所はどこにあるのですか、明倫幼稚園の隣接ですか。

●事務局

隣接ではございません。子どもさんが行き来できるような距離ではないです。マンションの一室を賃貸して、そこで開設をしようとするものです。場所は県の伊勢庁舎の裏手になります。

●会長

その他、ご質問はありますか。

●委員

これからどんどん増えていけばいいという考えの下で取り組まれているのですか。(3歳)未満児ですので、保育士の数が子どもの数に対してきちんと配置されているのかとか、未満児に取り組むのは大変なことで、予算的なこととかいろいろな方向性で、例えば外部施設のところですと職員もやっていたりですとか介護士もいたりとか、そういうことを考えたらどんどんやっていくということを目指してモデル的な取り組みかなと理解させていただいております。

●会長

それはご意見ということで、よろしいでしょうか。他にどうでしょうか。よろしいでしょうか。こういう形で今、事務局から説明していただいた形で「(仮)小規模保育めいりん」というのを8月1日に開設ですね、このことについて、認めてよろしいでしょうか。

(異議なし)

では、認められましたので、よろしくお願い致します。はい、ありがとうございました。いろいろご意見いただきまして。続きまして、事項書の4「その他」につきまして、事務局の方からお願いします。

●事務局

事務局から3点ご連絡です。

(会議録をホームページに挙げることの説明)

(次回開催は1月中旬～下旬頃の予定)

(委員報酬についての個人番号届出書の提出説明)

●会長

その他、全般の中でご意見・ご質問等ありますか。特にございませんか。

それでは、以上をもちまして、本日の「伊勢市子ども・子育て会議」を閉会といたします。大変ありがとうございました。